



おおくわ

第139号

平成27年1月22日発行

議会だより

発行 大桑村議会

議会報編集特別委員会

長野県木曽郡大桑村長野2778

電話 (0264)55-3080



正月の恒例となった「狼煙上げ」[和村地区]

12
月
定
例
会

❄️ 議長年頭あいさつ 2

❄️ 一般質問
5名が登壇、村政を問う 4

❄️ 議員研修
高知県梶原町視察報告 12



議長の 年頭あいさつ

大桑村議会議長

下起 幸一

新しい年が始まりました。
日頃より大桑村議会に対しご
指導ご鞭撻を賜り厚く御礼申し
上げます。

今、政府は重要課題の一つに
『地方創生』を掲げ支援を本格
化します。

大桑村議会としても、過疎、
少子化に歯止めをかけ幅広い世
代が暮らしやすい地域をつくる
ためにも長期的な視点で考え取
組みをしてまいる所存です。

本年が皆様にとって素晴らし
い一年でありますよう心からお
祈り申し上げ、新年のご挨拶と
致します。



690万円を追加

一般会計総額 35億4,867万円

12月定例会は、12月11日から24日までの14日間の会期で開かれ、委員長報告、組合議員報告、議長報告、行政報告、監査報告の後、陳情7件を審議。一般質問（5名5件）が行われた。村長提出議案（条例改正5件、補正予算5件）が上程され慎重審議可決した。

第3分団ポンプ小屋

Q 下在郷地区のポンプ小屋建設場所は決まったか。

A 消防団で検討しているが、候補地は決定していない。来年度検討し、28年度に建設工事を行う予定。

資料館の増設

Q 資料館増設概略設計に関して、議会にも調査研究の機会を設けてほしいが。

A 概略設計ができた時点で相談したい。

Q 資料館の増設に関して、文化財保護審議会での審議はあったか。

A 5月の教育委員会で協議し、審議会に諮問。施設整備の在り方を協議し、展示スペース・収蔵庫の確保・学芸員配置などを検討協議し、9月に村長へ

答申した。

意見

絵画館の計画を白紙に戻して今回の建設計画となるわけだが、村は歴史も古く、重要文化財もあり、貴重な遺跡も発掘されている。今後発見される歴史的遺物もあるかも知れないため、村民が郷土愛を持ち誇れる施設となるよう整備してほしい。議会としても審議検討していく。

除雪体制

Q 除雪体制と雪捨て場はどうなっているか。

A 規定では15センチの積雪で除雪に入るが、雪量が多い場合は早期に対応する。また、今年度より14社で除雪を行う。雪捨て場は、国交省の許可のもと、和村河川敷に設ける。

下在郷分館の備品

Q 下在郷分館の備品購入は、何を予定しているか。

A 長机・イス・扇風機・消火器を予定しているが、今後分館と協議し、必要なものを購入する。

手すり等の設置

Q 雪の中、高齢者が歩くには手すり等がないと危険な道路がみられる。対応は。

A 下在郷地区で要望があり取り付けたので、今後要望等があれば対応する。

高齢者入浴費補助

Q 高齢者入浴補助費の増額だが、施設改善等の影響による利用者増加か。

A 無料バスの運行、75歳以上無料とい

うことが少しずつ浸透してきた結果だが、まだまだ利用していただきたい。

Q 記名して行った入浴者調査の結果は。

A 75歳以上の対象者は756人。7・8月の調査結果は利用者62人（6・5％）で、リピーターが多いと思われる。広く利用していただけるよう周知に努める。

電気自動車充電器

Q 充電器設置の総額と補助は。

A 総額は896万円。コイン式から補助対象となるプリペイドカード式に変更した。総額の2/3が国補助、1/6が自動車会社、1/6が自治体負担。維持管理は8年間は自動車会社が行う。

質 問

この問答は、質問議員が要約したものです。



岩佐 孝和 議員

来年度 強い思いの事業は

より安全の確保を重視しなければ

Q 来年度歳入見込みをどう試算しているか。

A 村税は自動車関連今年度も若干の落ち込みがある。固定についても評価替えもあり減収となりそうだ。また、依存財源の地方交付税は26年度を下回らないようにと国は言っている。地方債も有利な起債を利用、国、県からの補助も事業に応じた歳入を見込む。

Q 厳しい歳入の中で事業の進め方は。

A より安心・安全の確保を重視。高齢者、子育てへの対応、教育文化活動の推進等村民と協同した事業を目指す。社会基盤整備事業として、下在阿寺線、大桑橋の詳細設計等、また、庁舎建設も一段階ずつ前へ進める。村の行財政改革の現状は。



のぞきど森林公園バンガロー

A 組織の見直し、公

共施設の整備、職員の見直し、行政評価等の計画、予算に反映させていく。
Q 気がかりな施設2件について、まず、のぞきど森林公園のバンガローの現状は。
A 種類はいろいろだが30棟余あり、年数も古いものは36年経過している。



旧大桑小学校

Q それらの施設の更新をどう考えるか。
A 修繕をしながら維持していく。更新は考えていない。
Q 将来的にはどうしていくのか。
A 平成39年まで契約も残っている。運営委員会もあるので議論を重ねていきたい。旧大桑小学校の利用状況を伺う。

A 達人の会の製作活動、月2回の通年使用のほか、体育館等に個人、団体で8件の利用がある。
Q 建物の老朽化もある。解体も選択肢にあるか。
A 老朽化も進んでいるが、補強は考えていない。今は白紙だが将来的には解体となると考える。



Q&A 村政を問う

鈴木 武 議員

般

村道大桑駅線改良工事の 再着工を求める 検討したい

Q 調査費用約4千万円を要した村道大桑駅線改良工事の今年度の着工を断念し休止を決定した。信号機設置に対する懸念を指摘する中での計画であったが、どの時点で休止を決めたのか。

A 国道右折レーン計画の中では、信号機設置の可能性はあったが、その後浮上した右岸道路の接続予定箇所から、150m以内のため2基の信号機が設置できないことがわかり、右岸道路の信号を優先したことにより設置が難しくなった。そのため着工を休止とした。

Q 今後は、どのような方法で対処するのか。

A 関山側・中山側の改良を考えたい。今回の場所は出入りいづれかの一方通行も視野に入れ考えたい。

Q 中部地区から国道19号線へのアクセスはよい状態ではない以上、信号機設置に固辞せず休止から着工への方向転換を望む。改めて、27年度の予算計上を求めたい。

A 現状通り休止とするが、住民の要望があれば検討したい。フォレスパ木曾の指定管理者契約期間が、平成27年度末で終了する。今後の取り扱いをどのように考えるか。



改良工事が進む国道19号

ているか。また、下在阿寺線改良工事による通行止め・木曾地方における災害による影響は。

A 普通車の影響はなかったが、大型車両は影響があった。客の利用状況は、10月の時点で前年対比、宿泊客約84%・日帰り客約75%・入浴客約120%である。そのため、経営状況は依然厳しい。

施設の運営については、75歳以上の村民の入浴利用状況が増加していることから福祉施設の一環として、また右岸道路に絡む施設であるため、修理を行い維持していきたい。現会社が続けられれば考えたい。外部の企業が、手を挙げれば選択肢の一つになる。



村道下在阿寺線

質 問

この問答は、質問議員が要約したものです。



水野 進 議員

今後に対応し得る行政の 進め方について 防災・減災対策を推進する

Q 長野県北部地震の震度6弱は、南海トラフ巨大地震「災害対策推進地域」の大桑村の予想震度と同じである。災害対応の仕組みづくり、耐震診断・耐震工事の促進、老朽空き家対策など早急な対応が必要と思う。空き家条例制定は考えているのか。

A 来年3月から6月議会で条例化したい。震災被害を見て、何とかしたい方もいる。「安全で安心」をうたう村として、耐震診断・耐震工事の促進は、啓蒙活動をしつつ促進する。補助拡大は状況を見て考える。

Q 諸施策の基本である住民要望をどのように捉えているのか。

A 計画策定時、住民代表の参加を得て、要望を反映している。

意見

また、従来の村政懇談会は参加者減で取止める代わりに、各地のサロンや集会などに出向き、要望を伺う。

住民要望の優先度は、安全安心対策の生命財産を守る施策。次に、少子高齢化と住・生活環境対策で、子ども子育て支援、高齢者福祉充実施策と考える。特に、高齢者向けスポーツ施設の充



消防団分列行進

実として阿寺地区の再整備、地域コミュニティの中心となる新庁舎整備は、巡回バスの運行、銀行ATMやJAなどを取り込み、「玄関まで横着けでき、役場や金融機関での用が済めば、ギャラリー・カフェで絵を見ながらコーヒを飲み、バスで帰れる」形となるよう要望する。



資料館

Q 27年度重視事業は、資料館の充実を図りたい。今後10年間で、大桑橋、庁舎建設の2大事業が控える中、有利な起債を活用すれば、後半に大事業が重なるかと非常に厳しく、早い段階に出来るものから計画したい。

A 資料館の充実の内容は知らされておらず、提案後の議論となる。

意見

資料館充実の内容は知らされておらず、提案後の議論となる。



Q&A 村政を問う

瓜尾 美佐子 議員

般

子育て支援策として 保育料や給食費軽減を

保育料は現行より
負担増にならないように
給食費は助成検討

Q 来年度から介護保険制度改正で、どんな影響が懸念され、その対応は。

A 特養老人入所の要件が要介護3以上に限定されるが、やむを得ない事情があれば市町村の関与で特例的に認めることができる。要支援1・2の方への保険給付は29年から地域支援事業へ移行されるが、必要な人には今まで通りのサービスを提供する。



いきいきサロンの様子

Q 介護の認定を受けていない在宅の高齢者を支える施策として、段差解消や手すりの取り付けなどの助成の検討を求める。

A 県の補助金もあるが、所得制限がある。介護予防、転倒予防など窓口の相談体制を強化して対応していく。

Q 高齢者の孤立を防ぎ、認知予防として求められるコミュニケーションの場、地域の居場所づくりへの対応は。

A 「ますや」を見本にし、いきいきサロンなどの支援を強化していきたい。

Q 来年度からの新制度に伴い保育料の徴収基準の検討中だと

思うが、ぜひ軽減を求めたい。

A 基本的には現行の保育料より上がることはないようにしたい。所得の階層区分の細分化や中長期的な保育料の在り方も検討している。

Q 学校給食は今や教育の一環として位置づけられている。また教育費の父母負担軽減として給食費の助成を。

A 財政負担の伴うことであり、様子を

みながらある程度の軽減をしていかなければと認識はしている。

Q 若者が住み続けたくなる村づくりへ新しい発想を取り入れるためにも中学生の目から見た村への思い、要望を吸い上げる機会を設けたらどうか。

A 明日を語るつどいに中学生の参加を呼びかけ、庁舎建設も含め、村づくりの課題をテーマに計画している。



明日を語る集い（平成26年2月）

一般質問

この問答は、質問議員が要約したものです。



古畑 昌夫 議員

地方再生と人材の育成を 農林業、福祉の充実と人材の 育成は重要

Q 最近、政府から「地方創生」ということが言われ、全国町村長大会でも決議されているが、村長の感想は。

A 「日本創生会議」の報告で、出生可能な女性の減少により896の市町村が消滅するおそれがあると言われ、また、地方の景気回復を願い、町村長大会でも決議された。

Q 平成の大合併で市町村は半分近くになり、人口減少や少子高齢化に歯止めがかかっていない。地方や国民の理解のないままの「地方創生」に振り回されてはならない。



林業体験

A 創生の中身ははっきりしていない。町村長大会の決議では3点の要望をしているが、国の方からはつきりした回答はない。

Q 全国町村会が9月に「都市・農村共生社会の創造」という提言を発表しているが、地方創生というなら農林業を国の基幹産業として再生させ、村でも担い手を育成することが重要ではないか。

A 同感である。地方の資源を活かした再生可能エネルギーの開発や林業の再生をセツトで進める必要がある。

Q 国の「青年就農給付金制度」なども活用し、思い切った後継者の育成に取り組む必要がある。また、地域の福祉ネットワークの充実が求められているのではないか。

A 安心して暮らせる福祉ネットワークということ、安否確認や災害時の住民支援合い講座など、見守り支援合いを充実させた。



やってみ隊 田植え（殿地区）

Q 地域の福祉ネットワークの充実と人材の確保は、地域の経済にも波及効果があるのではないか。

A そのためにも介護などの就業、処遇の改善が必要である。

Q 地域を支える大事な人材の育成のため、教育委員会でも「給付型奨学金」などを検討したらどうか。

A 今後の大事な課題として検討したい。

こんなことが決まりました

子ども・子育て支援法施行に向けて

条例改正

● 家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定

● 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の制定

● 放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定

児童福祉法の改正に伴う関係条例の制定

● 国民健康保険条例の一部を改正する条例

● 村営住宅管理条例の一部を改正する条例

国の法律等の一部改正に伴う関係条文の改正

陳情

● 安全・安心の医療・介護の実現と夜勤改善・大幅増員を求める陳情書

● 介護従事者の処遇改善を求める陳情書

陳情団体

長野県医療労働組合連合会

執行委員長 小林吟子

結果 全会一致 採択

● 地域振興・地域林業の確立に向けた「山村振興法」の延長と施策拡充に係る要請について

陳情団体

中部地方森林労連全国林野関連労働組合中部地方本部

執行委員長 後藤弘二

結果 全会一致 採択

● 耐震診断・耐震改修に関する陳情書

● 最低制限価格の設定に関する陳情書

● 国土交通省告示第15号の履行に関する陳情書

陳情団体

長野県建築士事務所協会木曾支部

支部長 田島信久

結果 全会一致 採択

● 私立高校に対する大幅公費助成をお願いする陳情書

陳情団体

中信地区私学助成推進協議会

会長 犬飼浩一

結果 全会一致 採択

11月
臨時会
11月25日

条例改正

● 一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

● 議会議員の議員報酬に関する条例の一部を改正する条例

行政報告

○ 9月27日発生御嶽山噴火について

9月27日木曾の象徴であります御嶽山が突然大噴火を起こし、紅葉の好時期と好天に恵まれ、多くの登山者で賑わう山頂付近では、57人もの犠牲者を出し、いまだに6人が行方不明となる戦後最大の火山災害が起きました。お亡くなりになりました方々には心よりご冥福を祈るとともに、お悔やみ申し上げま

● 特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

● 教育委員会教育長の給与、勤務時間その他勤務条件に関する条例の一部を改正する条例について

人事院勧告及び国の法律等の一部改正に伴う関係条文の改正

す。また、不明者の方々の一刻も早い発見を望みます。

この火山災害で木曾郡全体の観光産業に大きな打撃が懸念される中、10月27日には名古屋駅で愛知県と名古屋市長共催の「長野・岐阜応援キャンペーン」に郡内6町村長全員が出席し風評被害防止のための活動を行いました。また、11月20日には長野県、郡内町村、郡内観光協会などで組織した「木曾観光復興対策協議会」を設立、会長には原木曾町長、副会長は瀬戸王滝村長が就任しました。今後はこの協議会を中核として支援事業や観光PR、情報発信を行っていきます。

○ 木曾広域連合正副連合長人事

10月20日、栗屋木祖村長の退任に伴う木曾広域連合の正副連合長

人事が決まりました。

連合長は田上上松町長、代表副連合長、農政林務部長、総務文教副部長は私が担当することとなりました。

なお、併せて町村会の担当にも変更があり、会長には宮川南木曾町長、副会長は瀬戸王滝村長が就任、私は引き続き農政林務部長を務めることになりました。

○要望活動について

木曾川右岸道路の建設促進や木曾南部直轄砂防の建設推進について、同盟会として、南木曾町、上松町とともにそれぞれの機関に要望活動を行いました。

○全国町村長大会等について

11月19日、全国町村長大会が開催され、全国の町村長が一堂に会し、地域特性や資源を生かした施策を展開し、豊かな住民生活と個性あふれる多様な地

域づくりにまい進する決意を確認し、大震災からの早期復興と全国的な防災対策の強化、

真の地方分権改革の推進、道州制の導入反対、地方交付税の充実強化

などについて決議するとともに、地方創生の推進に関する特別決議を行ったところです。

○大桑村地域福祉計画等策定

11月21日大桑村地域福祉計画策定委員会が開催され委員長に松原社会福祉協議会長を選任しました。今後、地域福祉計画、障害者計画、第4期障害者福祉計画、高齢者保健福祉計画、健康増進栄養計画について高齢者部会、

障がい者部会、健康栄養部会の作業部会に分かれ、第5次総合計画と整合性を図り平成27年3月の公表に向けて検討を進めます。

○県道須原大桑停線伊奈川橋修繕工事

伊奈川橋が橋梁床版の補修が完了し12月16日通行止めが解除されます。この橋は昭和7年に開通しました。県では橋梁の修繕計画に基づき、今年度4月に修繕工事に着工したところ橋桁など予想以上に腐食等で劣化が進んでいることがわかり設計を見直し工期を延長してきたところです。

しかし今回の工事で橋梁の老朽化はかなり進んでいることと鋼材塗装や補強工事が残っているため、大型車両については許可制による通行制限をします。一般の乗用車等の車両についての規制は行いません。

鋼材塗装や補強工事は27年4月以降に行われますが一時的な通行止めで施工される予定です。

(会計別予算執行状況)

会 計 名	予算額(万円)	支出済額(万円)	執行率(%)
一 般 会 計	362,814	153,993	42.4
村 営 水 道 事 業 特 別 会 計	25,954	9,530	36.7
国民健康保険事業特別会計	41,305	19,259	46.4
農業集落排水事業特別会計	13,011	4,689	36.0
公共下水道事業特別会計	10,603	4,419	41.7
後期高齢者医療事業特別会	6,805	2,804	41.2
計	460,492	194,694	42.3

定期監査報告

監査委員 奥田斗生
横平幸男

平成26年度上半期主要事業定期監査は、財政状況、主要事業執行状況、委託事業執行状況、負担金補助及び交付金執行状況、特別会計執行状況の5項目を監査対象事項とし、11月5日、6日、12日、13日の4日間で実施した。

監査所見

一般会計並びに特別会計の監査対象事務事業398件から書類審査17件、現地審査13件を抽出し、監査を行った。

(1) 主要事業、委託事業、負担金補助及び交付金の執行状況

工事関係書類については、一部転記誤り等あったが、全体的によく整理されていると判断した。現場においては、各事業が適正に竣工されており、問題点等は見受けられなかった。

(2) 税等の滞納処理

村税等の滞納繰越については、昨年に比べ件数で27件、金額で148万円減少した。徴収方法に工夫がみられ改善しているが、滞納繰越額の40%を占める固定資産税の内容分析と個々の案件を再検

討されたい。徴収事務については、当該担当者のみならず関係する部署で協力し、適正に処理するよう努められたい。また、悪質と判断される事例については、対処方法等検討されたい。

(3) 未着手事業

番号制度に係る事業については、総務省のシステム改修が未確定であり3件が未着手となっている。その他事業については年度内に執行できるものと判断できる。

(4) むすび

一般会計・特別会計ともに適正に処理され各事業が円滑に推移していると判断される。下半期もコスト意識を持って経費の節減に努め、基本理念に基づき指導力、統率力を持つて鋭意努力されたい。

委員会報告

総務社会 常任委員会

◎12月1日開催

委員外議員の出席を求め、全議員出席のもと村担当者・木曾森林管理署南木曾支署の担当者から説明を受けた。

▼調査の結果と概要

1 子ども子育て新支援制度について

平成27年4月より実施される国の制度である。新制度によりさらなる子育て支援等の向上を期待し、12月議会までに各自調査することとした。

2 庁舎建設について

村づくりの基本設計の根底に係わる事項の



保育園小正月行事

ため、住民との意思疎通を図り調査研究を進めていくこととした。

3 官行造林について

森林管理署から資産価値としての金額提示

が示されていないが、山の荒廃を防ぎ、有効活用する方法として長伐期化に異論はないとの結論に至った。

(報告者 鈴木 武)

経済建設 常任委員会

◎12月1日開催

木曾森林管理署南木曾支署の丸山支署長ら関係者を招いて、平成26年度支署管内の主要事業、木曾の温帯性針葉樹林の保存・復元について報告を受けた。



委員会の様子

▼温帯性針葉樹林の保存・復元

木曾地方の温帯性針葉樹林の保存・復元については、中部森林管理局が一昨年9月、有識者等による検討委員会を設け、温帯性針葉樹林がまとまって残っている木曾地方の貴重なヒノキなど針葉樹林を将来にわたって保存し、その中にある人工林も長期間かけて天然

林に誘導するというもので、昨年3月に報告書を発表した。

報告書は、針葉樹林の保存・復元と伝承木造建築物や伝統工芸の保存・継承との調整を図り、木曾地方の森林との共生を目指すとして、木曾の国有林(約9万ヘクタール)のうち阿寺国有林、赤沢国有林を含む1万6579ヘクタールを「森林生物多様性復元地域」に指定し、温帯性針葉樹林を厳格に保存・復元する「核心地域」と、「緩衝地域」を設けることになっている。同地域は「木曾悠久の森」と命名され、取組みの内容は、学識者、林業・木材産業、レク利用者、地元自治体関係者などで構成する管理委員会での検討としている。

(報告者 古畑昌夫)

議員研修



活動報告

11月16日～18日

ゆすはら
高知県梼原町

大桑村議会は昨年11月17日、環境モデル都市に指定されている高知県の梼原(ゆすはら)町を視察した。前日の朝出発して高知県で一泊、高速で須崎市を過ぎてからは山間の道を通り、昼近くに梼原町の道の駅「ゆすはら」に到着した。

梼原町は、坂本龍馬らの脱藩の志士が行き来したところ、東側には四国カルスト高原、北側は愛媛県に接する四万十川の源流の町、人口は3681人(昨年10月現在)となっている。

「雲の上の町」として全国に知られている梼原町の視察の受け付けは、町役場ではなくJTB高知支店。道の駅「ゆすはら」の昼食も視察行程に組み込まれており、交流・展示などを行う「雲の上のギャラリー」施設と特



梼原町総合庁舎

産品の販売、宿泊、観光情報の発信を兼ねた施設、地熱を利用した温水プールなどがある。町産材の杉や檜がふんだんに使われ、太陽光パネルも設置されていた。

次に案内されたのは梼原町総合庁舎で、案内してくれたのは商工会の方であった。

総合庁舎は、「防災の拠点」・「住民の利便性」・「環境と梼原産材

光発電を設置、建物全体に耐火性、換気機能、省エネ対策が施されており、駐車場に面した大型スライディングドアが開放されると広いイベント会場になるそう。

総合庁舎の周辺には商店が並び、集会場や消防施設、近くに高校や病院もあり、のどかなコミュニティを形成している。少し離れたところに小中学校があり、近くの清流を利

用した小水力発電は、昼間は学校、夜は外灯にも使われているそうだ。四国カルスト高原には2基の風力発電機が設置されている。

ゆすはら発 森の資源が循環する公民協働の「生き物にやさしい低炭素なまちづくり」宣言には、資源循環と地域活力の持続、エネルギーの地域自立などが掲げられている。

(報告者 古畑昌夫)



総合庁舎内(右側が役場、正面が金融機関)

組合議会報告

木曽広域連合

議会報告

◎開催日 11月28日

◎場 所 木曽文化公園

第4回定例議会に上程された議案は、条例改正2件、一般会計・介護保険特別会計の補正予算である。審議の結果全て原案通り可決承認された。

なお、終了後開催された全員協議会において、御嶽山噴火の対応状況、木曽広域連合料金収入等改定案等の報告を受け協議を行った。

新炉建設に関して、建設・土木工事費用、資材費の急激な上昇により工事費の大幅な増額が見込まれるとの報告を受けた。

●条例改正

人事院勧告に基づき、一般職員給料表水準の引き上げ（平均0.3%）通勤手当改正、副管理者の期末手当支給割合引き上げ等のための条例改正。

●一般会計補正予算

人件費・御嶽山の災害対応分として2106万円増額補正。

●介護保険等特別会計補正予算

人件費の増額補正であるが、歳出の当該款項の組み替えのため補正額は0円。

（報告者 鈴木 武）

松塩筑木曽老人

福祉施設組合議会報告

◎開催日 11月17日

議案は、平成25年度組合一般会計予算歳入歳出決算認定、監査・公平各委員の選任、平成26年度組合一般会計補正予算及び平成25年度組合一般会計補正予算専決処分報告の計5件。審議の結果、原案どおり可決承認された。

◆平成26年度組合一般会計補正予算

今後の事業執行に支障をきたし、また、緊急を要する経費について、歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ1500万円を追加し、歳入歳出予算の総額を、歳入歳出それぞれ44億8300万円とした。

◆平成25年度決算認定

歳入47億1022万円、歳出46億9365万円。実質収支は、1657万円の黒字決算となったが、財政調整基金からの8000万円の繰り入れを加味すると2年連続の赤字決算となった。短長期入

◆平成25年度組合一般会計最終専決補正予算

2月補正予算編成後の状況変化、事業清算に伴い、歳入歳出予算の総額からそれぞれ3800万円を減じ、歳入歳出予算の総額をそれぞれ47億3500万円とした。

（報告者 水野 進）

大桑村議会主催 防災講演会を開催します

- ◆日時 平成27年2月7日（土曜日）
午後3時～
- ◆場所 野尻地区館（入場無料）
- ◆講師 一般社団法人 全国治水砂防協会
理事長 岡本 正男 氏
- ◆演題 『土砂災害から人命を守るために』
～広島災害等を教訓に～

当日はバスを運行します。お誘い合って是非お越しください。





サークル紹介

第4回

宮歌保存会



須佐男神社の創立年代不明なれど伝えるところによれば1715年以前に祀られていたと思われる。1715年6月18日天王洞に大水害が発生し、一瞬のうちに流失してしまった。翌享保元年（1716年）2月に今の新床の地に還し給う。

須佐男之命を祀り須佐男神社として今日に至っている。須佐男神社の例大祭は毎年7月14・15日の2日間御神体を輿に移し野尻区内の無病息災、五穀豊穡を願い巡行されます。巡行に際し、輿の傍らでにぎやかに盛り上げるのが宮歌です。

この宮歌は昭和30年に有志が集まり始めました。当時の世話役（会長）に故太田徳一さんになつていただき、この伝統文化を後世まで引き継ごうと小学4年生から6年生を対象に指導してきました。その結果昭和52年の7月1日付で大桑村無形文化財第2号に指定されました。当初は25名程でしたが現在では60名になり毎月2回の練習会を実施しています。地域伝統文化伝承に少しでもご理解をいただき、多くの方に参加して頂けるよう努力しているこの頃です。一人でも多くの参加をお待ちしています。

（代表 八橋文吾）

作品紹介⑥

「ヒノキ三味線」 田尻 英昭さん（東上）



平成12年に作成した三味線です。15年間愛用しています。

編集後記

昨年は県にとっても木曾にとつても大変な一年だった。天災の恐ろしさを知らされ、備えの大切さを感じた。一文字で世相を表す漢字が『税』となった。消費税、我々の納めた税金の使われ方への関心の高さかなと思う。

そんな中で衆議院選挙も終わり、自公与党が勝利した。しかし投票率は下がり総得票数も減った結果をどう分析するのだろうか。私達の任期も4月までとなる。今期も議会改革も進め、行政の羽翼を担えるよう頑張っ

てきたが、皆さんの目にはどう映っただろう。今年が佳き年となりますようお祈り申し上げます。

（岩佐）

委員長	横平 幸男
副委員長	木戸 勘一
委員	沼 友行
委員	大前今朝男
委員	岩佐 孝和